

# 木質バイオ発電所完成

ユナイテッドリニューアブルエナジー  
(秋田市、平野久貴社長)が、秋田市向  
浜に整備していた東北最大規模となる最  
大出力2万6千瓩の木質バイオマス発電所が  
完成し、7月の営業運転開始に向けて試

## 7月稼働へ試運転

発電所は2014年11月に地に、高さ約50mの13階建て  
着工。約2万8千平方mの敷地を整理した。ボイラ



験を重ねている。燃料には間伐材などを  
砕いた県産の木質チップを中心に使用。  
年間発電量は一般家庭約3万8千世帯分  
に相当する約1億4千万kWhを見込んで  
いる。

ーで木質チップなどを燃や  
し、高温高圧の蒸気でタービ  
ンを回して発電する仕組み。  
燃料となる木質チップは屋外  
の貯蔵ヤードに集め、使用時  
にボイラーに隣接する保管所  
へ移し、コンベヤーを通じて  
ボイラーに直接投入する。

総事業費は約12.5億円。  
営業運転に向けて、25人を新  
規採用した。発電した電気は  
敷地内の変電所を介して東北  
電力に送り、固定価格買い取  
り制度で売電するほか、新電  
力事業者へも販売する。6月  
まで試運転を重ね、7月から  
本格的な営業運転を始める。  
年間売上高見込みは43億円。

2月から電気事業法に基づ  
く点検のため試験運転を始め  
た。現在は中央操作室でメー  
カーの担当者や従業員らが、

7月の営業運転開始に向け  
て試運転を重ねるユナイテ  
ッドリニューアブルエナジ  
ーのバイオマス発電所



中央操作室で  
ボイラーなど  
の試運転を行  
う従業員ら

の林業者らと契  
約を結び調達す  
る。課題となる  
チップ不足を補  
うため、東南ア  
ジアから輸入す  
るパームヤシ殻  
(PKS)も使  
う。

平野社長は  
「バイオマス発  
電所は、木質チ  
ップの購入や輸  
送なども含めて経済効果が  
高い事業。順調に本格稼働さ  
せ、県内経済の活性化や雇  
用創出につなげたい」と話し  
認めている。

燃料の木質チップは、全県

(伊藤康仁)